

令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

西城中学校区 校番 19 学校名 呉市立西城小学校

a 学校教育目標	① 「心豊かに、自立する」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 呉に学び、自分を磨き、未来を創る児童を育成するため、地域や保護者との協働のもと、求められている資質・能力を育成する教育に貢献する。 〈ビジョン〉(将来の学校像) 教職員が力を合わせ、児童の力を伸ばし、共に高まる活力ある学校を目指す。
c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	学力では、3校で二川授業スタイルを実践し、学力向上を図ってきたが、基礎学力に個人差があり、思考力・表現力に課題がある。豊かな心の育成では、3校で学校行事や縦割り掃除の取組を通して自己肯定感の向上を図ってきたが、学年によっては自己肯定感が低い学年がある。体力では、個人差という課題がある。今年度は、学力の向上では二川授業スタイルをさらに深化させ、個の学びと協働による学びを実現できるよう授業改善を推進する。豊かな心の育成では縦割り活動をより充実させ自己肯定感を高める取組を進める。体力の向上では、課題を明確にして体力向上に取り組む。また、防災教育により自分の命は自分で守る力を育成する。		

育成を目指す資質・能力

○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体性

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・③ 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
★★★ 確かな学力の向上	① 主体的な学びの推進による学力の定着と向上	基礎・基本の徹底	・授業内で練習問題の時間を確保し、習熟を図る。 ・週1回の学力補充の時間で、個の基礎学力を向上させる。 ・家庭学習でもタブレットドリル等を活用し、個に応じた学習をする。 ・学習規律を徹底する。	国語科・算数科の単元テスト知識・技能の平均点 国語科・算数科の単元テスト知識・技能40%未満の児童	低85 中高80 0	低86.5 中高84.9 4	低101.8 中高106.1 96.9	低A 中高A B	低87.0 中高83.0 10	低102.3 中高103.7 92.2	低A 中高A B
		思考力・判断力・表現力の向上	・「二川授業スタイル」を組織的に進める。 ・個→集団(ペア)→個と思考を個に返し、考えの再構成をする場を確保する。 ・児童の言葉で説明する場を確保する。	国語科・算数科の単元テスト思考力・判断力・表現力の平均点 前年度標準学力調査記述問題正答率	低85 中高80 80	低84.8 中高84.4 80.9	低99.8 中高105.5 101.1	低B 中高A A	低84.3 中高79.4 85.6	低99.2 中高99.3 107.0	低B 中高B A
★★ 豊かな心の育成	① 自他を大切に して共に高め合う児童の育成	自他のよさに気づき、相手を思いやる態度の育成	・縦割り活動で発達段階に応じた役割をもたせ、振り返りを充実させる。 ・集会等でお互いのよいところを伝え合う場を設定する。 ・積極的な評価を行い、くすのき賞等により発信する。 ・いじめの積極的認知を行い、迅速に取り組む。	自分にはよいところがあると思っている児童の割合 友達の良いところを見つけている児童の割合	85 80	78 91	91 113	B A	89 92	104 115	A A
		目標をもち、主体的に行動できる児童の育成	・キャリア教育につながる学習活動を充実させる。 ・キャリアログを活用し、評価する。 ・学期毎の目標や学校行事での目標の振り返りを充実させる。	将来の夢や目標をもっている児童の割合	90	89	98	B	89	98	B
★ 健やかな体の育成	① 社会で生き抜くための体力と生活習慣の向上	体力の向上	・握力を鍛える運動に、朝の会や体育の授業で取り組む。 ・握力を鍛える運動について、全教職員が正しく指導できるよう指導法について共通理解を図る。 ・体力安全委員会を中心にして、握力を高めるためのイベントを開催する。	新体力テストにおいて、握力の結果が年間2kg伸びた児童の割合	75	65.2	86.9	B	60.7	80.9	B
		生活リズムの確立	児童への保健指導や健康委員会での取組など全体への指導を行う。	生活習慣調査(にこにこカード)において、週5日以上早寝ができた児童の割合	80	80.2	100	A	80.8	101	A
		「自分の命は自分で守る」防災教育の深化	・全学級学期1回以上防災に関する取組を行う。 ・防災通信を年2回以上発行し、保護者への啓発を行う。 ・土砂災害携帯マニュアルやマイタイムラインにおいて、保護者と児童と一緒に取り組む機会を設定する。 ・実践的な避難訓練を実施する。 ・体力安全委員会が防災に関する取組を行う。	自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合 災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合	100 100	100 100	100 100	A A	100 100	100 100	A A

業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	・日程や時程を工夫する。 ・分掌で業務を分担し、主任の業務の軽減を図る。 ・退校時刻は業務によって柔軟に対応する。	児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80	91	113	A	100	125	A
		長時間勤務の削減	・授業以外でもICTを効果的に活用する。 ・見通しをもたせ業務の軽重により、タイムマネジメントさせる。	時間外勤務が月45時間以内の教職員の割合	100	93	93	B	97	97	B

【k:評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60